

研究・調査報告書

報告書番号	担当
308	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳） Under double influence: assessment of simultaneous alcohol and cannabis use in general youth populations. 一般青年集団のアルコールと大麻の同時使用：2つの薬物の影響について	
執筆者 Pape H, Rossow I, Storvoll EE.	
掲載誌（番号又は発行年月日） Drug Alcohol Depend.2009;101: 69-73.	
キーワード 大麻、アルコール、薬物の複数同時使用、青年、一般集団、補完物	
要 旨 目的： これまでの研究で筆者らはどの程度若者がアルコールと大麻を同時に使用し飲酒と関連のある大麻の使用が全大麻使用のどのくらいの割合でおこっているかまで広く検討を行ってきた。国が異なれば全体の飲酒と大麻使用のレベルが異なるが、この違いによってどのように大麻と飲酒の同時使用の頻度が変わるか、また若い世代におけるアルコールと大麻の同時使用の現状について検討を行う。	
方法： ノルウェーの14-20歳の若者16813人の個々のデータと、ヨーロッパ35カ国の15-16歳の薬物使用に関する2003ESPAD研究の集団についてのデータを解析に使用した。	
結果： ノルウェーの若者では、過去1年の間にアルコールと大麻同時に使用した者の頻度は7%であった。8%が大麻を過去1年の間に使用しており、以上より大麻使用者の大半がアルコール飲んでいることがわかった。更に、大麻使用者の80%が大麻使用時には一緒に飲酒をしていたこともわかった。同様にESPAD研究の大半の国における麻薬使用者の大多数でアルコールも飲んでいった。このような大麻とアルコールの併用は、大麻が比較的浸透した飲酒の頻度が高い国でより頻度の高い傾向にあった。	
結論： 若者はしばしば大麻とアルコールを併用する傾向にあるため、彼らが薬物を使用することは想像以上に危険な行為である。この研究の結果から、大麻は飲酒の代替物というよりは補完物であり、若者の飲酒を減らそうという施策は、大麻使用をも減らすことができることが示唆された。	